

聖路加国際大学

看護管理塾

看護ものがたり～4 seasons～



開催の趣旨

課題・問題意識

看護臨床（医療臨床）の現場で様々な出来事（ドキュメント・インシデント）が起き、様々な対応・適応がなされている。（とりわけマネジメントにおいて）

その看護実践の中での知が果たして共有化され、誰でも活用できるようになっているだろうか

「知識をラーン（学習）し、リラーン（再学習）し、アンラーン（脱学習）することが知識マネジメントの大前提である」

P・F・ドラッカー



「知識は消え去りやすいものである。したがって始終、再確認（リコンファーム）し、学び直し（リラーン）、習練（プラクティス）し直さなければならない」

P・F・ドラッカー



ではどうやって、学び新しい考え・価値や方法・アプローチの仕方を臨床の知として導き出せば良いのか？

20世紀
成長社会



「みんな一緒」

正解主義

情報処理力



「正解」

ジグゾーパズル型（学力）

- ・読み書きソロバンの基礎学力
- ・頭の回転の良さ
- ・パターン認識（短絡的思考）
- ・営業マンが勧められたから保険に入る
- ・消費者として生きる

21世紀
成熟社会



「それぞれ一人一人」

修正主義

情報編集力



「納得解」



繋げる力

レゴ型（学力）

- ・知識を実習社会で応用する為のリテラシー
- ・頭の柔らかさ
- ・違う見方もあるかもしれない（複眼思考）
- ・自分のリスクを比較検討しデザインする
- ・編集者として生きる（人生は一冊の本）

情報編集力に求められる5つのリテラシー

- 1、異なる考えを持つ他者と交流しながら学習し、自分を成長させる能力
- 2、常識や前例（前提）を疑いながら柔らかく多面的・複眼的に思考する能力
- 3、頭の中でモデルやストーリーを描き試行錯誤しながら類推する能力
- 4、他者の立場になり考えや思いを想像・共感する能力
- 5、相手とのアイデアを共有するための能力

藤原 和博氏の提言を元に古閑が作成

「ナラティブ」とは何か？

東京学芸大学教授 野口裕二

Diamond Harvard Business Review March 2010 より抜粋

ナラティブとは一般に「語り」「物語」と訳されるが、もう少しわかりやすく説明すると「**自分の経験や出来事を解釈したり、誰かに説明したりしようと試みる陳述**」のことである。その特徴としては、複数の出来事が時間軸上に並べられているという点をあげることが出来る。

まず、似て非となる「ストーリー」と対比しながらナラティブの可能性について考えてみたい。スウェーデンの経営学者チャニオウスカは、ストーリーとはナラティブに筋立て（複数の出来事の関係性）が加わったものであると述べている。

「先週は残業が続いたせいで、今週は能率が悪い」
隣の同僚からこんな**ナラティブ**（つぶやき）が聞こえてきたとしよう。あなたが「今週は早く帰って休んだら」とねぎらえば、「そうだね」ということになるだろう。
あるいは、「何かトラブルでもあったのかい」と問いかければ、「実は・・・」と悩みを打ち明けられるかもしれない。この場合、相手は自分の状況についてより明確に説明するために、過去の出来事に筋を与えて語り始めるだろう。こうして紡ぎ出されるのが**ストーリー**である。

中略

次に理論やフレームワーク、一般常識的な知識などを意味する「セオリー」と対比するとナラティブの特徴はよりはっきりしてくる。
たとえば、先ほどのようなナラティブ（つぶやき）がたくさんの人から発せられれば、「残業が続いた週の翌週は疲れがたまって能率が悪くなる」という、法則性や必然性を含んだ一つの**セオリー**が導き出される。

中略

我々はこれまで、セオリーを絶対視し、様々なセオリーに振り回されすぎてきた。しかし現場で生じる様々な出来事は、セオリーだけで理解・説明できるものではない。今我々が必要としているのは、役に立つセオリーなのではなく、**“魅力的で力強いナラティブ”**なのではないだろうか。
ナラティブの個別性・偶然性、意外性を手掛かりに、「**いまだ語られていないストーリー**」を発掘・生成する中で、新たな希望が生まれてくるだろう。

ナラティブとは

「語り」

「物語」



「自分の経験や出来事を解釈したり、誰かに説明しようと試みる陳述」

(Aさん)ナラティブ (つぶやき・行為)

・・・問いかけ・共感・揺さぶり

.....

(Bさん)ナラティブ (つぶやき・行為)

・・・問いかけ・共感・揺さぶり

.....

ストーリー

(Dさん) ナラティブ (つぶやき・行為)

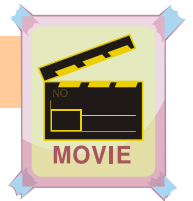
・・・問いかけ・共感・揺さぶり

.....

(Cさん)ナラティブ (つぶやき・行為)

・・・問いかけ・共感・揺さぶり

.....



ナラティブとは

「語り」 「物語」



「自分の経験や出来事を解釈したり、誰かに説明しようと試みる陳述」

(Aさん)ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

(Bさん)ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

(Aさん)ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

(Bさん)ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

ストーリー

ストーリー

(Dさん) ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

(Dさん) ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

(Cさん)ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

(Cさん)ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

セオリー (理論・フレームワーク)

(Aさん)ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

(Bさん)ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

ストーリー

(Dさん) ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

(Cさん)ナラティブ (つづやき・行為)
..... 問いかけ・共感・揺さぶり
.....

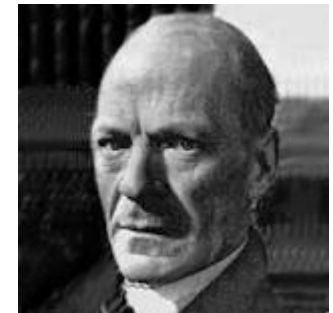
知について

- 「私たちは言葉にできるより多くのことを知ることができる」

マイケル・ポランニー



- 「何かを知っている (knowing what) 」と
「やり方を知っている (knowing how) 」を
区別しなければならない



ギルバート・ライル

何を伝えるのか？

形式知 (explicit knowledge)

暗黙知 (tacit knowledge)

人間や組織の知



マイケル・ポランニー

“魅力的で力強いナラティブ”で

**“まだ語られていないストーリー”
を紡ぎましょう**

